

2017 年度秋季大会報告

「わかばさんいらっしやい」 第1日目 12:10-13:00

担当： 松本明香 ・ 柳田直美

本大会第1日目 12:10 から「わかばさんいらっしやい」が始まりました。開始 10 分ぐらい前から 2、3 人ずつ会場にわかばさんが来訪され、その時間を使ってこちらが用意した「自己紹介カード」を用い、わかばさん同士交流を深めてもらってから本題に入りました。実際にわかばさんたちは、大会に来てもどのように動けばいいかわからない、緊張しているとのことを口にしていましたが、PowerPoint を使って大会の楽しみ方のコツを紹介すると、徐々に表情も柔らかくなっていきました。

最終的にいらっしやい来訪者は 18 人で、盛況だったと言えるでしょう。また、アンケートでのコメントからも好評であったということが見受けられます。参加者は大学院生が多かったですが、中には現場での実践を長く経験されているが大会参加は初めてという「わかばさん」もいらっしやったようです。そうした方たちにも、大会での時間を充実したものになるためのステップをご提供できたのではないかと思います。



「わかば・コンシェルジュ」 第1日目 12:00-17:00 / 第2日目 8:45-15:00

担当： 中山英治 ・ 吹原豊



第1日目 12 時からのコンシェルジュのブースでは、12 時 10 分から始まるわかばさんいらっしやいの会場への誘導から始まり、随時、来訪者がありました。昼食場所の案内や会場施設内の様々な発表会場に関する問い合わせが主な対応になりましたが、対応に際しては、ランチマップがとても役立ちました。初日からコンシェルジュのブースで大きな集客力を発揮したのは記念写真撮影用の顔出しパネル（報告 p.3 参照）でした。わかばさんだけではなく大会に参加された多くのみなさんにとってよい記念写真を撮っていただけたと思います。第2日目 8 時 45 分からのコンシェルジュのブースでは、随分早い時間から、ぶらさ da わかばの予約者が並び、予定していたセンパイの方々すべての予約が埋まりました。すべての予約が埋まった後でも、数人の来訪者がありました。

委員一丸となって、大会のわかばさん始め、多くの参加者の方々にとって実りの多い活動となることを目指しました。今後もさらなるチャレンジの可能性を探っていききたいと思います。

「ぶらさ da わかば」 第2日目 1210-13:20

担当： 三代純平 ・ 松尾慎

「わかば」の頃、日本語教育の世界で自分の先を歩いているセンパイと交流する機会を持てれば、ちょっとしたヒントをもらったり、悩みや疑問を相談したりすることができるかもしれません。しかしながら、自分からセンパイに話しかけたり、さらには、一対一で対話をする機会を持つたりすることはなかなかむずかしいことではないでしょうか。そんな「わかば」な人のために立ち上げたのが、「ぶらさ da わかば」も早いもので今回3回目の実施となりました。今回は、16人の学会員の方にセンパイを引き受けていただきましたが、満員御礼となりました。受付は9時からだったにもかかわらず、9時前の段階で10名ほどの「わかば」さんが受付に現れました。12時10分に対話が始まると、身を乗り出して話しているペアもいれば、具体的な資料を示しながらわかばと対話するセンパイの姿も目につきました。

まさにあっという間に対話時間の40分が経過し、「終了」を伝えたあともしばらくは対話を続けるセンパイ&わかばペアが多数いました。そして、インスタ映えするオリジナルパネルを使って笑顔の記念写真（もちろん、センパイとわかばさんのペア写真）で幕を閉じました。対話後のアンケート結果には建設的なコメントを多数いただきました。今後も少しずつ改善を重ねながらこの企画を続けていきたいと思っています。



総括

担当： 奥田純子

本年秋季大会での3つのチャレンジ支援事業は、上記報告にあるように、ご参会の方々からの評価も高く、また満足度も大変、高いものとなりました。各事業チームが前回までの反省を踏まえ、創意工夫をこらしたことが功を奏したと思われます。また、チャレンジ支援事業をわかばさんに広報し、参加を呼びかけてくださった先輩会員の皆様のご助力によって、各事業が一層の盛会となりました。広報してくださった会員の方々、並びに大会でわかばさんに暖かく接してくださった会員みなさまに、あらためて御礼申し上げます。ありがとうございました。

